

Aoyama Sapience

第49号



青山学院大学 文学部 英米文学科同窓会 会報

2023年9月1日発行

■ 巻頭随想 ■

青学での生き方を糧に新しい同窓会をめざして

吉波 弘

青山学院大学を卒業して来年で50年になる。自分の学生時代を振り返ってみると、特筆すべきことはゼミ（演習科目）を4つ履修したことだろうか。牧野、ベナー、秋元、谷（美奈子）の各先生のゼミに参加し、英語学、延いては言語学を極めようと夢見ていた。一方で1年時に所属したハイキング部はその名とは裏腹に、山岳部などと何一つ変わらない超ハードな運動部で、春の錬成合宿（北八ヶ岳）、夏合宿（北アルプス縦走）、関東ワンダーフォーゲル大会（戸隠黒姫）、万座小屋合宿を終えた9月には接骨院に通っていた。

それを契機に所属サークルを体育会から文化連合に切り替え、ロイヤルサウンズ・ジャズ・オーケストラでトロンボーンを演奏することになった。当時はまだ愛好会で、卒業までに同好会に格上げしたが、このバンドが昨年夏の山野ビッグバンド・ジャズ・コンテストで最優秀賞を獲得し、続くステラ・ジャム（ジャズ・オーケストラ・フェスティバル）でも優勝した。こ

の快挙を学院は今だに正しく認識できていないようだが、分かりやすく例えれば、駅伝チームが箱根駅伝で完全優勝を果たし、全日本学生駅伝でも優勝したのに匹敵する出来事なのである。

上記サークル活動に加えて、ウィルキンソン・アドバイザー・グループに参加したことが、現在、ウィルキンソン吉波アドグルOB会でのアイビーグループ活動やウィルキンソン財団法人の設立とそれを通しての学術および国際交流・支援活動に繋がっている。

学部卒業後はアメリカの大学院で言語学研究を続け、帰国後に37年間英米文学科専任教員として教鞭をとった。その間、専門研究より大学の国際交流促進や学科の新しい英語科目開発などに多くの時間を費やした。

こんな私が今年5月の総会で新会長に推挙されたが、この50年間に青学で培った多様性がこれからの同窓会活動にも役立つような気がする。英米文学科同窓会は今年で設立25周年を迎えるが、佐野前会長が大変



にご苦労されたコロナ禍の3年余りで社会は大きく変貌した。様々な仕事でリモートか対面かの選択が可能になり、同窓会でも定例の活動を対面にすればお元気な方や近郊在住の方は皆で集まれて嬉しいが、一方で外出がままならない方や地方在住の方はリモートで参加できることを望まれるであろう。故にこれからは諸事業・活動をハイブリッド形式で行うことが望ましいと考えている。また、会員拡大、特に若い世代の会員獲得のためには、SNSを活用した広報活動やコミュニケーションが必要だと確信している。当同窓会の持続可能性を求めて、皆様のご協力を仰ぎながら活動の多様化と会の活性化を図りたい。

（青山学院大学名誉教授
英米文学科同窓会新会長 '74年卒）

四つのキャンパス四方山話（1）

青山学院大学はこれまでに四つのキャンパスが存在しました。現在の青山、相模原両キャンパスの他に、相模原ができるまで存在していた世田谷と厚木の二つのキャンパスがありました。1981年に教壇に立ってから2016年に定年退職するまでの間に関わった四つのキャンパスについて、取りとめのない話を何回かにわたって書いてみることにします。

1981年4月の初陣は青山キャン

パス12号館の中教室でした。「自然科学概論」を週に5コマ担当しましたが、関心のない講義に私語をはばからない学生たちが多く中で、新米教師を励ましてくれる奇特な学生もいて、何とか1年間を乗り切れたことを思い出します。

この頃はまだキャンパスにカルト系団体の学生がいて、大学構内で活動していました。私も美しい女子学生?から「なんとかアカデミーに参加すれば無料でアメリカ留学できま

すよ」と誘われた経験があります。

2年目の1982年に厚木キャンパスが開学し、生活は一変しました。通勤時間が3倍になり、電車移動が仕事になった気分でした。教室はG館の2階でしたが、細長い厚木キャンパスの正門から一番遠い場所で、1時限の教室に学生が集まってくるまで20分ぐらい待たなければならないこともありました。しかし、本厚木駅からの神奈中バスでの通学事情を思えば、遅刻を咎めることもできませんでした。

（青山学院大学名誉教授
校友会大学部会長
'70年理工学部卒）
黒沼 健